

第 3 3 回 産業構造転換分野ワーキンググループ
「次世代船舶の開発」プロジェクトの拡充に関する留意事項

2 0 2 5 年 8 月 1 日
経済産業省 GX グループ
エネルギー・環境イノベーション戦略室

プロジェクト担当課室におかれては、今回のプロジェクト拡充にあたり、特に以下の点に留意のうえ、研究開発・社会実装計画の内容を精査するとともに、事業者等とも連携してプロジェクトを進めていただきたい。

- 研究開発要素が何か具体的に示していただきたい。その際、既存技術（LNG 等既存燃料のバンカリングシステムや液化水素運搬船における先行的取組）との相違点についても明確にしつつ、GI 基金で支援すべき革新性をご説明いただきたい。
- 今回開発するバンカリングシステムについて、想定ユーザーであるバンカリング事業者のニーズを明確に示していただきたい。
- 今回開発するバンカリングシステムに関して、安全面から規制・基準として認証する（ガイドライン化する）等の政策的支援についても検討いただきたい。
- バンカリングに関するビジネス構造や海外競合他社の戦略を踏まえたうえで、今回開発する自動化技術がどのように市場獲得に貢献していくのか、日本としてのマーケット戦略を明確に示していただきたい。
- 海外製エンジン等を搭載する船主への売り込みも含めた海外展開施策についても検討いただきたい。
- 「グリーンイノベーション基金事業の基本方針」では、「実施者が非実施者よりも裨益する見込みが大きい研究開発事業は、原則、補助事業にて実施し、委託事業は、①事業化まで 10 年以上を要する等、事業性が予測できない革新的技術開発、②実施者自身の裨益が小さい協調領域・基盤領域の研究・評価・分析・調査、のいずれかの場合に認められる。」としているところ、委託事業の要件には該当しないため、補助事業として実施いただきたい。その際、事業の性質（リスク及びリターン）を踏まえつつ、TRL、商用化予定時期、必要なスケール・コスト水準、関連する市場規模等の情報も勘案しながら適切に補助率を設定（時期に応じて逡減させることを含む）いただきたい。
- 実施者が事業を開始する際には、節目となる時期に適切な KPI（定量的な指標）を設定し、NEDO における技術・社会実装推進委員会におけるステージゲート審査等が円滑に進むよう、プロジェクト担当課室として実施者を適切に指導いただきたい。

以上